

て強度が小さいので、たて地の場合より針目を大きくする必要があるのである。(2)羽二重糸50番は、絹織物、絹交織織物を除いては、糸の強度が布の強度より大であるために織糸ずれ、布切断をおこす。(3)ナイロン糸60番及びテロン糸60番は糸の強度が裏地の強度より大である。(4)裏地の縫糸としては、カタン糸、ナイロン糸、テロン糸いずれの場合もほぼ80番、針目の大きさは4～6針が妥当である。(5)キュプラ織物の縫い糸の材質としては、カタン糸、テロン糸、ナイロン糸の順序が適するようである。

### C-53 裏地に関する研究 (第2報)

——縫い目の強度についての検討——

都立立川短大 石毛フミ子  
岡田 陽子  
桜美林短大 ○菅原由紀子  
聖徳学園短大 藤井 香代

1. 現在裏地としては、キュプラ、交織、絹等が使用されているが、縫い糸としては、一般に羽二重糸50番を使用している。この組合せが妥当かどうか検討するために、糸の種類、針目の大きさをかえて縫い目の強度並びに破断状態から裏地に適した糸の種類、針目の大きさを求め縫製上の目安とする。

2. (1)実験材料 ①キュプラ、化織交織、絹の織物10種類、①カタン糸80番、120番、ナイロン糸60番、80番、テロン糸60番、80番、羽二重糸50番、③ミシン針9番、11番、(2)実織方法 5cm×25cmの試料たて、よこ各々40枚ずつ裁断し、中表にたて二つ折りにして、縫い代1cm、針目は1cm 当たり3～7針、糸は上記の糸で組合せて縫い、テンシロンによって破断強度、破断状態を観察した。なお同一試料について5枚ずつの平均値を求めた。

3. (1)、交織織物を除いて、よこ地はたて地に比較し